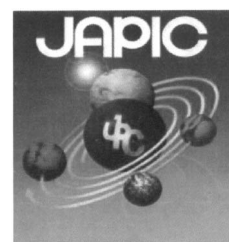


施設紹介

財団法人 日本医薬情報センター



財団法人 日本医薬情報センター事務局

野本 晃

成り立ち

「財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC ; Japan Pharmaceutical Information Center)」は、昭和 45 年にサリドマイド、キノホルム等に象徴される薬害防止の医薬品情報対策を発端に、日本製薬工業協会加盟の有志 25 社の共同出資で設立された任意団体「日本医薬情報センター」が前身である。医薬品に関する有効性・安全性、開発、規制などの情報を積極的に収集し、システム化に着手した。この事業も緒につき、更に公共性を持った公益法人にしようという気運が高まり、多くの医学界、薬学界の方々の尽力、当時の厚生省薬務局の後押しを得、昭和 47 年 12 月に公益法人として厚生大臣の認可を受け、現在に至っている。

財団法人として 30 余年が経過した現在まで、医薬品に関する臨床的に有用な情報を総合的に収集・処理・提供することによって、薬剤の臨床使用の適正化を通じ、設立目的「医療と製薬のかけ橋の役目を果たす」の実践活動をしてきた。

現在、JAPIC の人員構成は、常勤の役職員 47 名 (うち薬系・技術系 34 名) で、その他に派遣職員・短時間労働者や、外部スタッフとして文献抄録等の仕事をしている者約 40 名 (半数以上が薬系・技術系) を加えると 100 名近い人員が業務に携わっていることになる。

膨大な医薬品情報を常に最新の内容に維持し提供していくためには莫大な費用と手間がかかるため、JAPIC は維持会員制度をとって運営しており、会員は製薬企業等会員 (医薬品卸業を含む)、医療機関等会員 (医薬系大学、薬剤師会等を含む)、賛助会員 (情報サービス機関等) で構成されている。現在のところ、各種サービスは会員を中心に提供してきているが、新たに医療従事関係者を対象に簡単な検索方法で安価な料金の文献検索が可能なデータベース「iyakuSearch」を開発し、本年 10 月からホームページ上で公開して会員以外にも広く利用される情報を提供していくこととしている。これら情報の収集・加工・処理に携わっている部署の概要と主なサービスの内容について以下に紹介したい。

主要業務の紹介

医薬文献情報担当

取扱う情報は医学・薬学領域で医薬品に関する、(1)国内の学会・研究会で発表される年間 290,000 演題のうち約 57,000 演題、(2)国内の学会誌・専門誌に発表された年間 50,000 論文のうち約 16,000 論文、(3)海外の主要医学雑誌に発表された論文のうち約 10,000 論文、(4)世界の主要国における医薬品の承認・販売に関連する情報、外国政府等の医薬品等の措置情報などである。

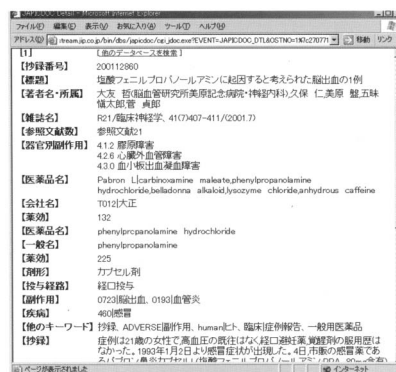
これらの情報収集を製薬企業、医療機関が独自に行うことは不可能ではないが、そのための経済的労力の負担は莫大であり、また効率のよいものではない。そのため JAPIC では、情報源に注意を払い、広範囲の文献に目を通すと共に、それ以外にも Web サイトから情報を得、適切に加工後、下記のような形で有償サービスを行っている。

[JAPIC データベース]^{注1)}

・日本医薬文献抄録 D B (JAPICDOC)

国内・海外の医学・薬学関連文献 357 誌 (国内約 342、海外 15) から、医薬品の有効性・安全性に関する文献を選択して作成。

書誌事項、キーワード、抄録の 3 大要素で構成され、国内文献 (1979 年から) と海外文献 (1996 年から) のデー



JAPICDOC 詳細表示画面

タを収録。毎月1回データ追加。

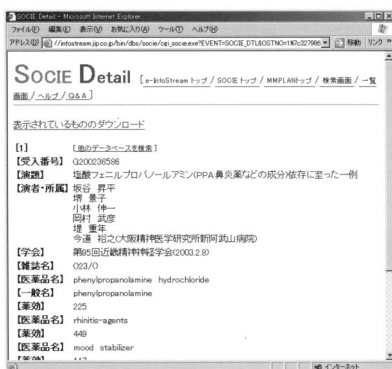
また、書誌事項と抄録を収録した冊子体の『日本医薬文献抄録集』も毎月発行。

- ・日本医薬文献抄録 D B 速報版 (JAPICDOC 速報版)
JAPICDOC に収録されるまでの間、速報として検索項目を限定し、提供しており (海外文献は除く)、JAPICDOC より約 1 ヶ月前に提供。毎月 1 回データ更新。
- ・医薬品副作用文献情報 D B (ADVISE)

前記 JAPICDOC 採択誌と同じ採択論文を対象に、医薬品名とそれによる副作用のデータを完全にリンクさせたデータベース。副作用は慣用語 (文献中に記載の用語) と基本語 (統制語) の両方から検索が可能である。1995 年からのデータを収録。毎月 1 回データ追加。



ADVISE 詳細表示画面



SOCIE 詳細表示画面



医薬文献情報担当

海外文献情報を除くデータは年 2 回、冊子体『医薬品副作用文献情報集 (ADVISE)』としても発行。

- ・医薬関連学会演題情報 D B (SOCIE)

国内で開催される医薬関連学会 (地方会を含む) で発表された演題の中から、医薬品の有効性・安全性に関する報告を基に作成。対象学会は年間延べ約 4,500 学会で、演題・演者名・学会名、医薬品名・副作用症状名等の各項目からの検索が可能。1993 年 4 月からのデータを収録。毎月 1 回データ追加。

平成 16 年 10 月を目標に上記 4 データベースについて、文献と学会演題情報の区別なく一体で検索できる「iyaku Search」を開発中で、JAPIC のホームページ上から更新頻度・スピードを高めて提供予定である。(「これからの取組み」参照)

[医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Q サービス)]

国内開催の学会及び国内雑誌から、医薬品の適正使用 (有効性、安全性、品質) に関する情報を速報的に提供。情報提供を求める医薬品名・範囲等の事前登録により、検索結果を毎週 1 回提供する SDI (Selective Dissemination of Information) サービス。

学会情報：年間約 4,500 学会 (地方会を含む) のプログラム・予稿集、学会報告から、年間約 50,000 件を採択。雑誌：約 350 誌を対象に、年間約 16,000 件を採択。

[外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報 (JAPIC Daily Mail サービス、略称 JDM)]

平成 12 年 12 月の「医薬品 GPMSP の一部改正」に伴う外国措置情報の収集等の業務支援サービスとして、電子メールにより毎日送信。

米 (FDA、CDC)、英 (MCA、CSM、MDA)、スウェーデン (MPA)、独 (BfArM)、カナダ (Health Canada)、豪 (TGA)、EU (EMA)、WHO 及び日本の規制当局のホームページ約 70 サイトを毎日 (平日) 調査し、医薬品・医療用具の安全性に関する最新情報を日本語の概要に該当文書へのリンクをつけて、電子メールで即日提供。

[生物由来製品に関する感染症情報サービス]

平成 15 年 7 月、改正薬事法の施行に伴い、製薬企業の感染症定期報告に係わる情報収集の業務支援として、下記のサービスを開始。

- ・JAPIC-Q Plus (略称 Q-Plus)

国内雑誌及び国内開催の学会から、生物由来製品の由来となる生物、原材料、原料又は材料による感染症の情報を収集し提供。情報提供を求める動物種 (ウシ、ブタ、ヒツジ等) の事前登録により、動物種ごとの検索結果を毎月 1

回提供する SDI サービス。

情報収集の対象は、厚生労働省から目安として提示された「学会誌名・学会名リスト」に記載された国内発行雑誌 23 誌、国内開催 21 学会。

- ・ JAPIC Daily Mail Plus (略称 JDM Plus)

日本を含む各国機関の有用な Web サイトを調査し、生物由来製品の由来となる生物、原材料、原料又は材料による感染症情報を電子メールにより週 1 回、日本語の概要と該当文書へのリンク、キーワード (感染症、動物種) を付けて提供。

調査対象は、WHO、OIE、EU、各国機関 (米、英、カナダ、独、豪、スウェーデン、日本) の約 50 の Web サイト。

- ・ PubMed 代行検索

海外雑誌に掲載された感染症情報を、医学文献データベース「PubMed」で検索し、月 1 回電子メールで提供。

この部署では他に月刊誌として、主として海外の医薬品情報を収集・抄訳した『医薬関連情報』、米国 FDA の規制情報を紹介した『Regulations View』、JAPICDOC 採択文献から臨床副作用報告に関する文献を抽出した『医薬品副作用文献速報』も編集・発行している。

添付文書情報担当

昭和 47 年から製薬企業及び厚生労働省の協力を得て、新規・改訂添付文書の収集・メンテナンス作業を行っている。これを基に「添付文書全文データ」、「添付文書情報データベース」、『日本医薬品集』等に加工・提供し、医療現場の業務を支援している。平成 16 年 3 月 31 日現在の医療用医薬品添付文書のデータ保有数 12,364。

入手した添付文書、データの全文データベース化や、日本製薬団体連合会からのデータを基に下記データベースの提供を行っている。

- ・ 添付文書情報 D B (NewPINS)

医療用医薬品の添付文書の全項目を登録し、全文検索ができる (グラフ、化学構造式等を除く)。薬価基準収載品のほか、医療現場で使われている医療用医薬品をほぼ網羅的に収録。登録添付文書数 12,364 枚 (平成 16 年 3 月末現在)。添付文書データと共に、薬価、緊急安全性情報、生物由来製剤一覧も収載。新薬の添付文書はデータベース化の前に PDF で即刻閲覧可能。項目の選択出力機能もある。月 2 回データ更新。

- ・ 承認品目情報 D B (SHOUNIN)

1989 年 1 月以降に厚生労働省が承認した、医療用医薬品、一般用医薬品の承認年月日に関するデータを収録。登録品目数 38,279 品目 (平成 16 年 3 月末現在)。

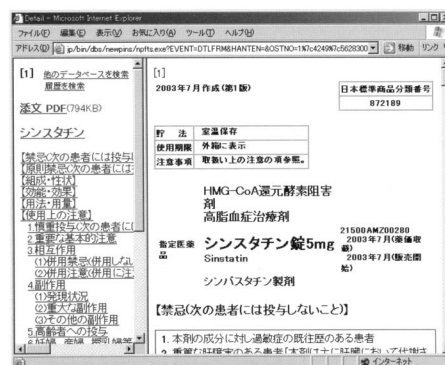
1 年分のデータは別途、冊子体『医薬品製造 (輸入) 承認品目一覧』として発行。

今年度の発行で 30 年目を迎える『医療薬日本医薬品集』は、医療関係者に根強い支持を得ている。年 4 回発行の CD-ROM 版「日本医薬品集 D B」は、医療薬の他に『一般薬日本医薬品集』の情報も入っているため利便性が高い。

- ・ 『医療薬日本医薬品集』 (DRUGS IN JAPAN:ETHICAL DRUGS)

< 2004 年版 (第 27 版) / 平成 15 年 10 月発行 : 年刊 >
約 16,000 品目の医療用医薬品を、一般名ごとに 2,015 項目で記載。

索引は五十音索引、欧文索引を設け、それぞれ一般名、



NewPINS 詳細表示画面



SHOUNIN 詳細表示画面



医療薬日本医薬品集 / 一般薬日本医薬品集



添付文書情報担当

別名、商品名のいずれからも検索可能。また、薬効別索引（一般名、該当商品名、会社名を記載）、製剤識別コード一覧（巻末付録）にも検索機能があり、製品名、成分名が不明でも検索できる。

本文中の、[使用上の注意]の「警告」・「禁忌」は赤文字、「相互作用」の併用禁忌、「副作用」の重大な副作用は青文字にし、重要事項が見やすい。

2004年版から、生物由来製品、特定生物由来製品の添付文書記載事項を一欄にした「生物由来・特定生物由来製品関連記載一覧」を巻末付録に追加。第28版（平成16年10月発行予定）には構造式を付加予定。

・『一般薬日本医薬品集』（DRUGS IN JAPAN:OTC-DRUGS）

<2004-05年版(第14版) / 平成15年7月発行：隔年刊>

延べ1,400社の調査資料により、国内で市販されている配置薬を含む一般用医薬品約13,000品目を収載。

索引は、商品名五十音、及び会社別商品名（製造品目、販売品目を区別）。本文は製品を薬効別に分けて、各薬効群の先頭に「製造（輸入）承認基準」、「使用上の注意」をまとめ、次いで医薬品各条の順に記載。

その他にこの部署では、製薬企業が厚生労働省提出用として作成する添付文書SGMLデータ化及びPDF化代行入力業務を行っている。

また、製薬企業からの要請により、平成15年度には東京医科歯科大学歯学部付属病院 土屋文人薬剤部長らの開発による「医薬品類似名称検索システム」の試験的運用を行った。なお、サービス延長の希望を受け、JAPIC会員には当分の間、「医薬品の安全上問題となる品名」「承認申請予定の品名」等に限っては検索サービスを継続中である。

図書館部門

図書館はJAPICの情報収集の窓口として、医薬関連の逐次刊行物や公開文書情報の網羅的な収集・管理を行い、収集した資料は情報加工業務や閲覧に利用される。

一般公開され、誰でも利用可能。昭和48年に文化庁が

ら複写サービスができる施設として指定を受け、所蔵資料の複写^{注2)}、閲覧等を行っている（開館時間；月曜～金曜 9:30～17:30）。

・学会開催予定DB（MMPLAN）

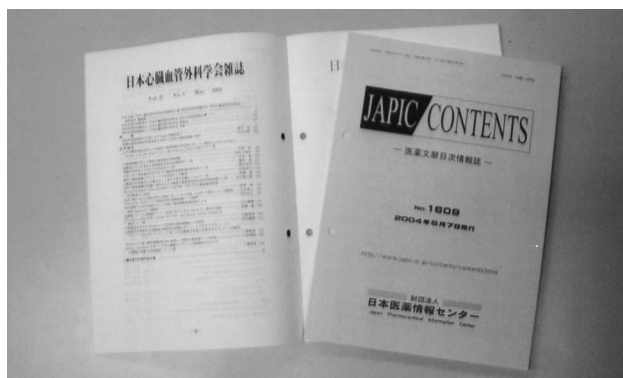
雑誌やインターネット等を情報源として、国内で開催される医療関係の学会・研究会等の開催予定情報をデータベース化したもの。2001年4月以降の開催分が検索可能。毎月1回データ更新。

・『JAPIC CONTENTS（医薬文献目次情報誌）』

国内の医学・薬学関連雑誌約500誌の目次をまとめた週刊目次情報集。JAPICホームページでもPDFで閲覧可能（<http://www.japic.or.jp/>）。



MMPLAN 詳細表示画面



JAPIC CONTENTS



図書館

広報活動

会員向けに月刊誌『JAPIC NEWS』を発行。JAPICの各種サービス、出版物の発刊、催し物に関するお知らせ等を掲載している。現在、医療関係者向けに「知っておきたい...」シリーズとして「薬物療法」「医薬品情報の活用法」についての解説記事を連載中である。各種のお知らせ等については同誌が発行されるまでの間、速報としてJAPICホームページにも随時掲載。

また、前記の解説シリーズやJAPIC主催の講演会での発表要旨等をまとめた『JAPICJ (ジャピック・ジャーナル)』を、今年度から年2回発行の予定である。

これからの取組み

これまでJAPICは主に製薬企業及び医療機関会員を対象に情報提供を行ってきたが、今後は公益法人として「公益性」を常に念頭に置き、会員限定で情報提供を行うばかりではなく、患者や医師、薬に関心のある方々に広くJAPICが保有する安全性情報を積極的に提供していきたい。

具体化の一つとして前述でも触れたが、現在、長年蓄積してきた文献・学会情報を使いやすくした新たな文献検索システムの構築に取り組んでいる。パンチカードの時代も含め30余年の積み重ねがある「JAPICDOC」だが、現在はその利用が限られているため、今後広く多くの方に利用されるように使いやすく廉価にしていこうとするものであ

る。

具体的には「JAPICDOC」、「JAPICDOC速報版」、「ADVISE」、「SOCIE」を再構築し、それらを一つのデータベース「iyakuSearch」として検索可能にするもので、提供データは1996年～現在までの約40万件の文献・学会情報データである。1995年以前のデータについては、順次追加していく。多くの会員の方々にモニターとして参加いただき、ご意見をお伺いしながら開発を進めて行く予定である。

今後、より充実した情報を作成し、それが多くの人々にとってなくてはならないものとなるよう、医療情報源のセンターとしての役割を担っていくことができればと考えている。



注1) JAPICデータベースは、日本電子計算株式会社(JIP)のe-InfoStreamから提供している。なお、「JAPICDOC」に限って、科学技術振興機構(JST)からも提供している。

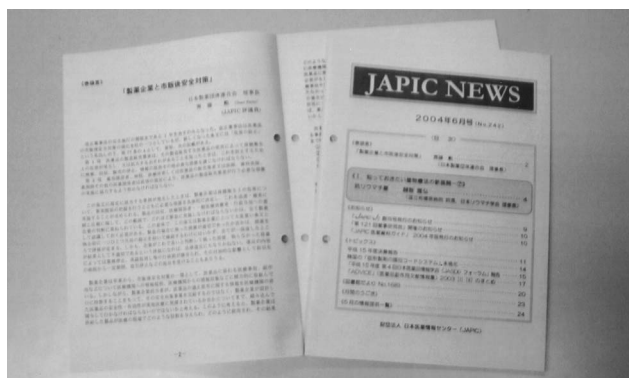
「MMPLAN」を除く6つのデータベースは、医薬品名、一般名をキーワードとして相互に検索が可能。また、「JAPICDOC」、「SOCIE」、「MMPLAN」、「NewPINS」は、各検索項目で入力したキーワードを「検索条件(検索式)」として保存し、再利用ができる。

注2) 文献、添付文書の複写申込みは、「JAPICDOC」、「JAPICDOC速報版」、「ADVISE」、「SOCIE」、「NewPINS」、及び「医学中央雑誌」データベース(提供:医学中央雑誌刊行会)の検索結果画面からも、直接オーダーが可能である。



住所: 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15
長井記念館3F、5F
(JRなど渋谷駅から徒歩8分)

TEL: 代表 03-5466-1811
FAX: 03-5466-1814
URL: <http://www.japic.or.jp/>



JAPIC NEWS



JAPICJ